

# 労働災害撲滅へ尽力

松

## 吉光組が安全大会開く 小

吉光組(小松市、吉光岳文代表取締役社長)の2022年度安全大会は17日、同市こまつの杜のサイエンスヒルズこまつで開催され、社員と協力企業で構成する吉光組の関係者ら約160人が労働災害防止の徹底を誓った。

冒頭、吉光社長はデジタル環境の整備など新たな働き方改革を今後も推進していく姿勢を強調。その上で「我々は労働災害を1件でも減らしていく努力を続けていかなければならない」とあいさつした。

吉光組会長で三創建設の川口智長代表取締役も「日々の危険の変化を見逃さず、何かが違うと感じたら作業を中断し、計画を見直すことも必要」と呼びかけた。引き続き、現場での優れた安全管理をたたえ、三創建設とナカセが安全表彰を受けた。この後、

吉光組の道勇治専務取締役が安全活動を報告。活動方針や重点推進事項などを説明。労働災害事例も紹介した。安全行動に関する講演のほか、同社の高松辰男執行役員土木統括部長が安全宣言を読み上げ、吉

光成寛取締役副社長が開会あいさつした。

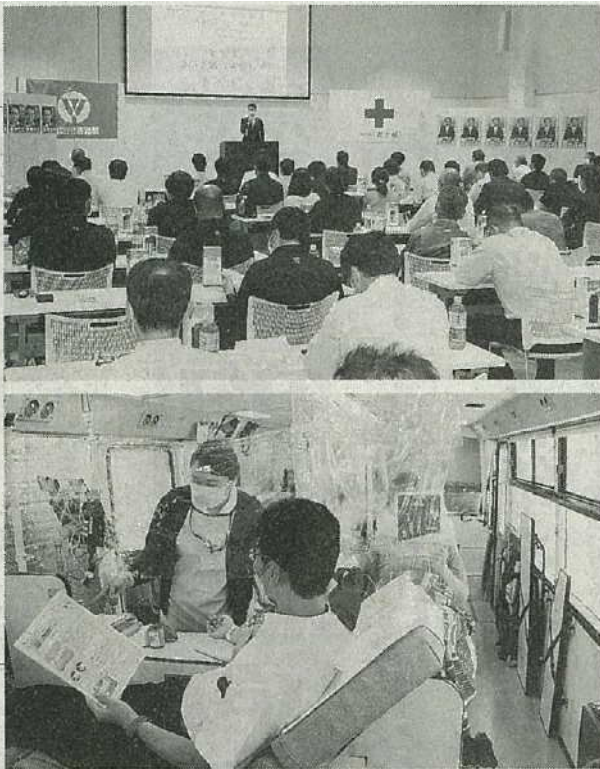
### 60人が社会貢献

#### 献血ボランティアも

吉光組は、サイエンスヒルズこまつ前で献血ボ

ランティア活動を実施した。同社のほか、協力企業の社員ら約60人が血液不足の解消に協力しようと、社会貢献に取り組んだ。

献血協力者は各自、タッチパネルで問診に答え、血圧測定などの検診を受けた。この後、隣接する県赤十字血液センターの献血バスに乗り込み、400ミリルの採血を行った。同社では安全大会の開催に合わせて毎年、社会貢献の一環として献血活動を実施している。



約160人が参加した吉光組の安全大会①と献血ボランティア② 17日